



World YWCA Annual Report 04/2007-03/2008

## 世界 YWCA 2007 年度活動報告

日本語版制作 **日本YWCA**

## 世界 YWCA 会長・総幹事あいさつ



世界中の YWCA にいるたくさんの素晴らしい女性たち・寄付者・パートナー、そしてボランティアの支援と励ましにより、世界 YWCA は世界規模での優先課題である HIV、女性に対する暴力、経済的公正、正義ある平和、人権、女性のリーダーシップなどの活動を促進することができました。

2007 年～2008 年には、HIV の「女性化」に対応するための十分な資源を一貫して要求し、HIV と貧困と暴力の関係性を強調しました。そして紛争解決と平和構築のプロセスへの女性の平等な参画を求めました。

キリスト教を基盤とし、すべての女性の人権を守るために、YWCA の偉大な伝統である高いレベルでのアドボカシーとコミュニティの女性へのサービスをさらに拡大しました。私たちはすべての活動に YWCA の情熱、ビジョン、若い女性のリーダーシップを展開し続けています。

世界 YWCA スタッフ、ケニア YWCA、多くのボランティアや寄付者の才能が集まり、ケニアの首都ナイロビにて世界 YWCA 総会を成功に終わらせることができました。この歴史的な総会では会則を改定し、新しいリーダーを選出し、そして「ナイロビ 2007 行動要綱」にて何千人もの人々が HIV および AIDS について対応することを誓いました。総会の結果は総会特集号に記載されています。

また総会では次総会期の活動の指針となる戦略的枠組みを採択しました。

変革には仲間との協力が必要不可欠と認識している世界 YWCA は、パートナーとの関係を大切にし、若者の運動・女性団体・人権や開発に取り組む NGO・宗派を超えた宗教者ネットワーク・国連機関・主要寄付者、そして支援者などとの関係を深めています。私たちはこれからも異なる宗派や宗教との対話に参加し、信仰を持つ多様な草の根の女性の声を代表していきます。

私たちの運動は、自らの時間や専門知識、そして能力を積極的に提供するボランティアによって豊かなものになっています。ボランティアの献身や貢献がなければ、このような結果を生み出すことはできなかったでしょう。

私たちのストーリーや経験から学んだ英知を共有することによって、私たちは活躍し続けます。

世界 YWCA 会長 スーザン・ブレナン 総幹事 ニャラザイ・ゲンボンズバンダ

## 世界 YWCA が大切にすること

世界 YWCA は 125 カ国で社会的、経済的変革をリードする世界的な女性のネットワークです。平和、正義、人権、環境のために声を挙げ、100 年以上にわたって女性の地位向上を目指して活動の最前線に立っています。

世界 YWCA は女性のリーダーシップを養成し、女性が直面する世界規模での不平等に対する地域の解決策を見つけます。毎年、2 万 2,000 のコミュニティで 2,500 万人以上の女性と少女が活動しています。こうした草の根の活動経験を基に、世界規模でのアドボカシー・アジェンダを作成します。世界 YWCA はキリスト教を基盤としたボランティア会員による運動体であり、平等で完全な女性の社会参画のために活動する、さまざまな信仰と背景、そして文化をもつ女性たちの集まりです。

### ビジョン:

正義・平和・健康・人間の尊厳・自由・環境への配慮が、女性のリーダーシップによって促進され維持される、完全に開かれた世界を目指すことです。

### 目的:

世界 YWCA の目的は、世界中の女性と少女たちの力を集め、リーダーシップを養成し、すべての人々にとっての正義・平和・健康・人間の尊厳・自由・環境への配慮を実現することです。

### ゴール:

- すべての女性と少女の文化的・経済的・政治的・宗教的・社会的公正を獲得する
- 女性のリーダーシップを養成・維持し、意思決定者としての女性の参画を推進する
- 知識があり活動的な会員と共に、世界的な女性の運動体としての世界 YWCA の有効性を地域・国・世界レベルで高める

### 優先課題:

- 女性と子どもの人権
- 持続可能な発展(女性の経済的公正と環境を含む)
- 女性の健康と HIV および ADS
- 正義による世界平和

### 価値を置く行動:

- 人生のあらゆる場面で女性と少女が自己決定権を持つこと
- リーダーシップを発揮して世界中の女性と少女の地位を向上させること
- 若い女性がリーダーシップを発揮すること
- 環境に配慮すること

## ハイライト：2007年4月～2008年3月

### ■国際エイズ会議(IAC)に向けて女性のリーダーシップを構築

HIV対策に重点的に取り組む団体が参加する最も包括的で最大規模の会議である、第17回国際エイズ会議が2008年8月にメキシコで開催されます。

2006年、世界YWCAは、女性や若者、信仰を基盤とする団体など市民社会の代表として、第17回国際エイズ会議調整委員会(CCC)のメンバーに選ばれました。世界YWCAでは、IACに参加する女性や少女の数を増やし、彼女たちが有意義な形で会議に参加し成果をあげられるよう、一連のワークショップを行いました。より多くの女性が有意義な参加をすることにより、女性や少女が世界のAIDSに関する議題から取り残されず、HIVと共に生きる女性たちが直面する困難が、会議開催中だけでなくそれ以後も取り上げられ、対策が取られるよう、世界YWCAは期待しています。

こうした参加支援ワークショップを通して、世界YWCAは、地域の声がこの世界規模の会議で確実に取り上げられ会議全体に届くような声明書の書き方や提出方法を教えました。

最初のワークショップ「前向き(ポジティブ)なコミュニケーション」は、2007年11月22日～26日、メキシコシティで開かれ、メキシコDF・グアダハラハラ・ナウカルパン・コスタリカ・ブラジル・ホンジュラスの各YWCAから参加者が集まりました。参加者は、IACで声明書を提出する予定です。さらに、ガーナとアルバニアでも地域ワークショップが計画されています。

2007年4月、8人の女性が世界YWCAを代表して、「第4回HIV、AIDS、性感染症(STD)についてのラテンアメリカとカリブ海地域フォーラム」に参加しました。フォーラムはブエノスアイレスで開催され、少なくとも4,000人の代表者が参加しました。このフォーラムで世界YWCA代表団は、ラテンアメリカの女性と少女が直面する問題を確認し、HIVに関するプログラムを強化して有意義な形でIACに参加できるようにしました。

世界YWCAは、ワークショップや世界YWCAのウェブサイト、年4回発行の機関誌「コモン・コンサーン」を通してIACへの理解を深めていきます。

### ■YWCA非暴力週間

女性への暴力は、社会のあらゆる階層に影響を及ぼす病であり、世界のすべての地域に蔓延しています。世界保健機関(WHO)は女性への暴力を「重大な健康問題」と呼んでいます。

女性への暴力は女性だけでなく社会全体に影響を与えます。したがって、YWCA非暴力週間では、社会全体を巻き込んで女性と少女にとって安全な社会をつくるための解決策を見つけしていきます。

2007年、世界各地のYWCAが、女性への暴力に焦点を当てた活動を実施しました。その幾つかを紹介します。

**アンゴラ YWCA** では、ノルウェー・チャーチ・エイド(Norwegian Church Aid)と地元キリスト教会の女性グループが協力して、さまざまな形のドメスティック・バイオレンスや精神的虐待に対する判断法や対処法のスキル向上トレーニングを実施しました。

**フィンランド YWCA** では、ボール紙に自分の手形を描き、そこに平和メッセージを書くというイベントを地域の人たちを招いて実施しました。これらは図書館や市場、公共施設などに掲示され、女性と少女に対する暴力の重大性を訴えました。

**カナダ YWCA** では、「少女であることの力」という高い評価を得ている会議を16の地域YWCAと共に主催し、非暴力週間を成功に終わりました。会議に参加した若い女性たちは、いかなる形の暴力も受けない安全で健康で幸せな生活を送るための手段や情報を学びました。

## ■YWCAにおける責任と説明責任の促進

「YWCAにおける適切な組織運営と説明責任の基準」のCD版が、2007年6月に完成しました。このCDはパワーポイント版で、寄付者や委員を対象にしたプレゼンテーションや、スタッフとボランティアのワークショップなどで簡単に使えるようになっています。

「YWCAにおける適切な組織運営と説明責任の基準」は、1999年から2003年に作成され、世界YWCAが求める組織運営や管理について述べられています。加盟YWCAはそれらを満たすことによって活動の質・責任・説明責任を確実に守ることができます。2003年に発表されて以来、ナショナルYWCA・地域YWCA、そして地域の支部などが、「YWCAにおける適切な組織運営と説明責任の基準」に含まれるツールやチェックリストを使用して、適切な組織運営と説明責任の基準をどの程度満たしているかを評価しています。

こうした自己評価を通して、組織は適切な組織運営と説明責任と果たすためにリーダーシップが発揮されているかどうかを知ることができます。その結果、将来計画・年間プログラム計画・予算・組織開発計画を準備するにあたり、十分な情報を得ることができます。

## ■ケニア女性の生活を再構築する

2007年12月30日、激しい論議を呼んだ選挙結果がケニアで発表され、その後、暴動が勃発しました。世界YWCAはすぐさま緊急行動を呼びかけ、派遣団を送りました。ニヤラザイ・ゲンボンズバンダ世界YWCA総幹事は、地域に根ざしている人たちの声を聞くようケニアのリーダーたちに次のように求めました。「市民と政治家の間で理解を深める必要があります。教会が担う役割もあります。若者や女性たちの声を取り上げ、対話に参加させなければなりません」

世界 YWCA は、ケニア YWCA や他団体と緊密に連携してケニアの状況への対応を続け、女性のニーズに応え、調停プロセスに女性を参加させ、相互尊重および寛容を促すことで地域社会に平和を築くよう尽力しました。世界各地の YWCA は、連帯のメッセージや募金を送って支援しました。

### 生活を変える：絶望を希望に変える

「家に火を放たれ、2 台の自動車が燃やされました。経営する金物店に押し入れられ、略奪されました」と、ケニアのモンバサにあるリコニ YWCA に避難している女性が、対面インタビューに応えました。「私たちは、全てを奪われました」

ケニアの政情不安を受けて、世界 YWCA はケニア YWCA とケニア赤十字社と共同で、国内避難民 (IDPs) キャンプにおいて迅速なニーズ評価を行いました。その際、何百人もの女性にインタビューしましたが、その中には、リコニ YWCA の仮設キャンプに避難している女性たちもいました。この分析の目的は、女性と少女の当面のニーズを探ることでした。

報告書には、ケニアへの人道的支援には、働く女性たちが生計を立て直せるよう経済的・物資的・技術的支援が含まれるべきであると述べられています。

世界 YWCA は、ケニア YWCA や他団体と連携をとり、危機への対応を続けています。調停プロセスに女性を参加させるよう働きかけ、地域の平和を促進しています。



## 世界 YWCA 総会：2007 年 7 月 1 日～7 月 11 日

世界 YWCA 総会は 4 年ごとにおこなわれ、世界 YWCA の理念・会則・財政・活動計画等の議論や決議がおこなわれる重要な会議です。2007 年は、ケニア YWCA の協力を得て、ナイロビで総会が開催されました。総会では、会長と総幹事の選出や、今後 4 年間の政策・行動計画の決議のほか、総会に先立って開催された臨時総会では会則改正がおこなわれました。

### ■会則の改定

「生活を変革し、社会を変革する (Changing Lives, Changing Communities)」というスローガンのもと、ナイロビには世界中から 2,000 人も女性たちが集まり、会議場内は、変革に向けてのエネルギーで満ちあふれました。今回の総会でおこなわれた重要な変革の 1 つに、会則の改正が挙げられます。今回は、まず前文の見直しがおこなわれ、より現状に即した文言に書き換えられるとともに、改めてキリスト教基盤を確認する内容となりました。

また、改正された会則では、より多くの若い女性が確実に意思決定の場に参画できるようにするため、運営委員の 25% は 30 歳以下の女性で構成することとされました。

## ■新しい指導者

世界 YWCA 総会では、新しい会長と総幹事が選出され、会長には、スーザン・ブレナンさん(オーストラリア出身、弁護士、都市計画/環境法専門)、総幹事には、ニャラザイ・グンボンズバンダさん(ジンバブエ出身、元国連女性開発基金(UNIFEM)東および”アフリカの角”地域事業部長)が任命され、それぞれモニカ・ゼツチェ前会長(2003-2007)の、そしてムシンビ・カニヨロ前総幹事(1998-2007)の後を継ぎます。

前会長および総幹事の任期中は、HIV と AIDS の問題を運動の中心に据え、この問題への取組みを推進させることに成功し、HIV および AIDS と女性のリーダーシップの役割について話し合う初めての世界会議を成功に導きました。また、前会長および総幹事は、会則改正の草案段階から改正に至るまでを監督する重役を果たしました。さらに、変革の力基金の設立、適切な組織運営と説明責任の基準の導入など、多くの事業を成し遂げました。

また総会では、世界 YWCA 常任委員会の新しい委員の選挙がおこなわれ、30 歳以下の若い女性が多く選出されました。その結果、委員会の 55%を若い女性が占めるという、これまでに類を見ないほど、若い力が結集する委員会構成となりました。

「求められることが常に変化するグローバルな社会において、YWCA は時代に即すべく努力してきました。150 年のその歴史の中で、YWCA は適切な働きを女性とコミュニティに対しておこなうよう、活動の重点を修正しながら歩んできました」

モニカ・ゼツチェ 世界 YWCA 会長(2003-2007)

## ■若い女性のリーダーシップ・フォーラム

世界中から多様な文化やバックグラウンドを持った若い女性たちが集まった、「若い女性のリーダーシップ・フォーラム」では、HIV と AIDS、性と生殖に関する健康と権利、若い女性のリーダーシップ、女性(特に若い女性)に対する暴力、経済的公正の問題について議論が交わされました。このフォーラムでは、問題に立ち向かう人々からの発題や示唆に富む議論がおこなわれたとともに、どのようにすれば問題を改善することができるかについて話し合われました。また、変革を起こすために、若い女性が身につけるべき知識とスキルについての議論や情報の共有がおこなわれ、参加者間で自らの力を高め合いました。

2 日間にわたったフォーラムを経て、若い女性に関する問題は YWCA 全体で取り組んで行くべき課題として扱われることが確認されました。また、参加者たちにとってこのフォーラムは、同世代のネットワークを作り、新しい発見をする有意義なときとなりました。



## ■新加盟 YWCA

7つの新しいYWCAが、2007年世界総会で世界YWCAに加盟しました。

### コンゴ・ブラザビル YWCA

2001年設立。HIVと共に生きる女性たちへの無料配食サービスや、抗レトロウィルス治療をおこなっています。

### ホンジュラス YWCA

2003年設立。若い世代を含む100名の女性たちが、活発な活動を展開しています。

### ヤンビオの Sudan YWCA

ノルウェーYWCA・YMCAの協力のもと、1997年に設立。女性が安心して集い、相互に支援し合える「場」の提供をおこなっています。

### ロシア YWCA

2003年に設立し、7カ所の支部があります。シングルマザーや孤児など、非伝統的な家族の権利保障について活動をおこなっています。

### モザンビーク YWCA

2006年設立。HIVと共に生きる女性たちの職業支援プロジェクト、孤児およびさまざまな危険のリスクに遭いやすい子どもたちを支える活動をおこなっています。

### インドネシア YWCA

2001年に立ち上げられ、現在5つの地域YWCAがあります。主に、リーダーシップの養成、ジェンダーに関する意識向上、HIVとAIDS、宗教間対話による平和構築の課題に取り組んでいます。

### ブルンジ YWCA

2001年活動開始。トレーニングや教育を通して、内戦により公民権を奪われた女性たちのエンパワーをしている。

## ■変革の力基金、10億円（1,000万USドル）の資金規模で始動

1999年、「変革の力基金」を実現させるためのグローバルキャンペーンが、2500万USドルを目標額に始まりました。世界89以上もの国の人々から非常に多くの支援を得ることができ、2007年の総会時までに1,000万USドル（約10億円）に達しました。世界総会では、この快挙を称える記念式典がおこなわれ、今後は利息の運用を含め、女性のリーダーシップ養成のために運用を開始します。「変革の力基金」は、社会を変える若い女性のリーダーシップ養成の目的で設立されました。若い女性に投資することで、社会における女性のリーダーシップが世代を超えて続いていくことを確実にします。



## ■アフリカ・パートナーシップ訪問「サファリ」

将来に向けての持続的な協力関係と世界的な連帯を養うことを目的とした「サファリ」が、12カ国のYWCAの協力を得て実現しました。このプログラムの参加者は、HIVとAIDSがどのような影響を社会に与えているのか、また、この広がりに対して、地域の女性たちのリーダーシップは、どのように活かされているのかということを感じ取る機会を得ました。参加者の多くが、「これまでと違った視点を持てるようになった」との感想を述べています。また、ウガンダを訪れたひとりの参加者は、「私たちを勇気づけたのは、こうした悲惨な状況にもかかわらず、そこには希望があることです」と感想を寄せました。

## ■国際女性サミット(IWS)、HIVとAIDSに関する女性のリーダーシップに注目

HIVおよびAIDSと共に生きる女性国際コミュニティ(ICW)と共催で、国際女性サミットが7月4日～7日に開催されました。サミットのテーマは「HIVとAIDSに関する女性のリーダーシップ」で、HIVとAIDSに関する女性の取り組みに焦点をあてた初の国際会議となりました。この会議には、2,000人以上の人々が集まり、本会議が始まる7月5日には、ムワイ・キバキ、ケニア大統領から開会の辞が述べられました。また、本会議に先立つ7月4日には、HIVポジティブの女性たちの会議、「ポジティブ女性のフォーラム」が開催され、HIVと共に生きる女性たちが集う特別な1日となりました。

3日間でおこなわれた数々のワークショップ、本会議、タウンホールミーティングといった関連イベントは、女性たちに示唆を与え、活気づけ、HIVとAIDSの課題でリーダーシップを発揮するよう女性たちを動かしました。また、専門家や世界的に活躍している指導者たち、コミュニティーレベルで活動をしている女性たちなどが、経済の安定・貿易・性と生殖に関する健康と権利・女性主導のHIV予防など、HIVとAIDSに関する多様な話題を提供しました。また、ワークショップの数も70にのぼり、さまざまな視点からHIVとAIDSの問題について語られました。例えば、ポジティブ女性を対象とした「私を語る方法(How to tell your story)」というワークショップが開かれたり、「HIV感染予防・ケア・治療のための、相互援助と排除のないコミュニティを創造する」というワークショップが支援団体向けにおこなわれ、実務に有益な情報提供や意見交換がなされました。

## ■変革を導く女性賞(Women Leading Change Awards)

7月5日、ケニア・ナイロビのケニヤッタ国際会議場でおこなわれた国際女性サミット本会議の開会で、献身的に顕著な活動を行った14人の女性たちへの「変革を導く女性賞」の授賞式がおこなわれました。この賞は、ケニアのムワイ・キバキ大統領およびモニカ・ゼツェ世界YWCA会長より授与され、HIVとAIDSに関する問題に対して、コミュニティの中で斬新な切り口で地道な取り組みを続け、顕著な貢献を果たした女性や団体のこれまでの功績を讃えました。

## ■ポジティブ女性のフォーラム(Positive Women's Forum)

国際女性サミットの一貫でおこなわれた、HIVポジティブの女性によるポジティブの女性のための会議、「ポジティブ女性のフォーラム」では、世界各地から281名のHIVポジティブの女性が集まり、この時点においてHIVポジティブの女性が一同に会した会議としては世界で最大規模となりました。このフォーラムは、HIVポジティブの女性が作るさまざまなネットワークの協力を得て開催することができました。1日に集中しておこなわれたこの企画は、HIVポジティブの女性たちにとって、互いの情報を共有したり、ネットワークや協力関係を作ったり、これ

から取り組むべき問題について議論を深める良き機会となりました。特に、未だ達成されていない基本的人権に関する緊急な課題を明らかにすることができました。

国際女性サミット開催中におこなわれたパネルディスカッションやワークショップなどを通して、女性たちは変革を押し進める力やその意思があることをはっきりと示しました。いろいろな意味で斬新な取り組みが盛り込まれたこのサミットには、ポジティブ女性はもちろんのこと、国際機関の高官や NGO で活動している人々など、幅広い層から多くの人々が参加しました。草の根で活動している女性たちと国際レベルで活躍している女性たちがともに集い、情報を共有し、悲しみや喜びを分かち合いました。また参加者の中には、HIV が世界の女性たちに与えている大きな影響について、このサミットに参加して初めて理解したという人もいました。

参加者たちは帰国後、自分たちの国でも HIV の問題への取り組みを進める決意を示しました。ピーター・ピオット国連エイズ合同計画(UNAIDS)事務局長は、「国際女性サミットは、2007 年の HIV および AIDS 関連の会議の中で、最も重要なものです」と述べました。

国際女性サミットでは、話し合いばかりがされていたわけではありません。最終日の 7 月 7 日には、「ナイロビ 2007 行動要綱(Call to Action〜社会変革をもたらすために取り組むべき 10 の行動〜)」が発表されました。これは、女性や少女たちの間における HIV 感染の拡大を防ぐために必要な取り組みが 10 項目にわたり示されたものであり、これまで世界中でおこなってきた女性たちの活動から得た経験や知識を反映させたものです。この行動要綱には、参加者 5,000 人以上が署名しました。世界 YWCA のウェブサイトや出版物を通して、人々の署名後の活動について順次報告していきます。そして、これらの報告をきっかけに、ひとりでも多くの人が思いを行動に移してくれることを願っています。



## 生活を変え、コミュニティを変革する

女性たちは地域コミュニティの中で日々、家族、町や村、そして生活全体に変化をもたらしています。彼女たちは、HIV と AIDS、人権、正義ある平和、持続可能な発展、そして意思決定の場での女性の役割などにおいて、力強いリーダーシップを発揮しています。

### ■人権

女性と子どもの人権に関するアドボカシーを導く、世界 YWCA の方針の枠組みは、世界人権宣言で謳われている基本的人権と自由、第 4 回国連世界女性会議で採択された北京行動綱領、その他の国際的および地域的な人権規約に基づいています。方針の枠組みは YWCA 運動がすべての人々のためのものであるよう求め、ジェンダーの不平等がいかにして不公平な経済的・政治的・社会的構造を導き、女性の貧困、教育へのアクセスの欠如、意思決定からの排除、紛争時の脆弱性を増加させたかを強調しています。

世界 YWCA は女性の人権を初めて国連の議題に載せた団体のひとつであり、それ以来国連と共に、また世界規模の基盤に立って、女性の人権や女性の社会的地位向上をもたらす行動を主張してきました。

## 女性の人権を脅かす不安定な治安状況

2007年12月10日の「世界人権デー」の声明で、世界YWCAは女性の地位は向上したと述べました。その大部分は粘り強い女性運動と、女性の人権を大事にする規範等の結果として達成できたものです。しかし同時に、極度な貧困と不安定な治安状況によって人権を享受できていない女性と少女も数多くいると強調しました。

多くの国で、女性は男性よりも長時間労働し、収入は少なく、インフォーマル部門で働かざるを得ない状況が続いています。このような状況では女性は人権侵害を受けやすくなっています。

声明では、市民社会・行政部門・政府などに、極度な貧困や女性に対する暴力をなくし、持続可能な発展を推進し、女性や少女へのHIVおよびAIDSの影響を減少させるよう求めました。

2008年2月から3月、世界YWCAからスーザン・ブレナン会長を筆頭に11名の代議員がニューヨークで開催された女性の地位委員会(CSW)に参加しました。女性と平和および安全保障に関する国連安全保障理事会決議第1325号(以下UNSCR 1325)決議の実行と促進を求める決議が2007年の世界YWCA総会で採択されたのを受け、代議員たちは平和交渉と紛争解決に女性を参加させるよう求めました。

世界YWCAは国連加盟国に対して、CSWで十分扱われていない特定の問題について資金を増加するよう求めました。特に、HIVとAIDSにおける女性のエンパワメントに資金を提供すること、UNSCR 1325決議の実施のために、柔軟かつ利用しやすい資金提供メカニズムを通じて十分な資源を配分すること、女性の自らの運動への投資を、それと同じだけの金額の資金提供によって認めることを求めました。

## 生活を変える:レバノンYWCAのシェルターは暴力の被害に遭った女性に変化をもたらします



マリーはレバノンでのどかな暮らしを送っていました。尊敬される母であり、妻であり、キリスト教徒でした。法律を学び、自分の車を運転し、貯蓄もありました。

結婚から35年経ったある日、マリーの夫が酷く怒った状態で寝室へきて彼女に出ていくよう言いました。マリーは途方に暮れました。「こんなことが私に起こるなんて思っていませんでした。パジャマ姿で道にたたずむしかありませんでした」とマリーは言います。避難場所を探していたところ、

暴力の被害に遭った女性と子どものためのレバノンYWCAのシェルターを紹介されました。

そのシェルターではマリーのような女性のために居場所とサポートを提供しています。「レバノンで増加しているドメスティック・バイオレンス(DV)の現実には目を向けるのは辛いことですが、多くの困った女性と子どもたちのために緊急支援ができることを嬉しく思います」とレバノンYWCAのモナ・カウリ総幹事は語っています。

DV に関する話題はレバノンではタブーです。レバノン憲法は世界人権宣言に従うことを誓っていますが、女性たちは今でも自分たちの権利の実現を求めて闘っています。YWCA を含むレバノンの多くの女性団体は、女性を暴力の被害から守る法的枠組みを策定するキャンペーンを開始し、国の司法当局に女性からの申し立てを真剣に受け止めるよう要求しています。

さまざまな背景を持つ女性がシェルターを訪れます。「被害に遭った外国人女性の一時保護について、その女性の国の大使館から照会を受けることもあります。また、暴力に遭った女性のためのカウンセリングや法的なサービスを提供する団体からも女性を受け入れます。他にも友人やメディアからこのシェルターの存在を知り、助けを求めて自ら訪れる女性もいます」とカウリ総幹事は述べています。

シェルターでは全ての女性に 1 対 1 のカウンセリングが提供されます。コンピューターの基礎研修や就業支援サービスもあり、女性に新しい生活を始める機会を与えています。「私はコンピューターと英語を頑張っています。娘たちと連絡をとるために、もう少ししたらノートパソコンを購入する予定です」とマリーは言いました。

レバノン YWCA はシェルターを新しくし、非暴力ワークショップをベイルートのスラム街に住む苦境にある子どもたちのために実施する予定です。シェルターを家と呼ぶ女性たちに YWCA が変化をもたらしているとカウリ総幹事は感じています。「時にはとても難しい状況に直面することもあります。しかしマリーのようなストーリーを聴くと、シェルターが女性の生活を変える機会を与えていると分かるのです」

## ■持続可能な発展

女性の経済的公正と環境の視点を含む持続可能な発展は、世界 YWCA 運動の世界規模での優先課題です。YWCA の持続可能な発展に関する政策は、公正で持続可能なコミュニティを築くことを求めています。そのためにはジェンダーと人権の視点を考慮し、また社会的平等と環境への配慮が発展のプロセスにおいて重要な要素であることを理解しなくてはなりません。

2007 年 10 月 14 日から 21 日の「公正な貿易のための国際活動週間(Trade Week of Action)」の期間中、世界 YWCA はエキュメニカル・アドボカシー連盟(EAA)に参加し、強制的な自由貿易がいかにも何百万人もの貧しい人々に苦しみを与えているかを強調しました。

世界中で女性たちは、未だに家庭を守る責任の多くを負っています。女性たちは家族の胃袋を満たそうと最前線で努力を続けています。ほとんどの発展途上国では、食料の 60% から 80% が女性によって作られ、世界の食料の半分は女性によって生産されています<sup>1</sup>。このような事実にも関わらず、女性が果たす重要な役割はほとんど表に出ません。

国連ミレニアム開発目標(MDGs)のひとつ目のゴールは、貧困と飢餓を根絶することです。世界 YWCA は、世界中の多くの女性が恵まれない状況に置かれている限り、貧困と飢餓は根絶できないと考えます。よって、経済的安定の手段としての持続可能な発展は優先課題であり、YWCA 運動は、女性に自らの経済的安定を獲得するために解決策を模索し実施するよう求め続けています。

---

<sup>1</sup> 国際連合食糧農業機関(FAO)、「1995 農業におけるジェンダーと食の安全供給」(Gender and Food security in Agriculture)

現在、67 カ国の YWCA で女性の経済的公正と世界の債務に取り組むプログラムを運営しています。40 以上の YWCA が環境への配慮に関する問題に取り組んでいます。

### コミュニティを変革する：オーストラリア YWCA は女性が直面するオーストラリアの住宅危機を変革します

楽しき我が家 — オーストラリアの 4 万 4,000 人の女性と少女にとってその言葉は当てはまりません。なぜなら知り合いの家に泊まり歩く彼女たちには家と呼べる場所がないからです。オーストラリアで女性が直面する住宅危機は長い間無視されてきました。しかしオーストラリア YWCA は女性が経済的に自立して安全に暮らせることができるように活動をしています。

オーストラリアの 15%の世帯は安定した住居がないことによって生じるストレスに悩まされ、その多くは低所得であったり、身体的障がいや文化・言語的に多様な経歴を持っている女性、またオーストラリア先住民やトレス諸島の女性の中に顕著です。

女性は安全で手ごろな住居を手に入れる際、ジェンダー関連の障害に直面します。また多くの女性は貧困や失業、男性に比べて低賃金という経験をします。ひとり親世帯の大部分はシングルマザーです。女性はドメスティック・バイオレンス(DV)の被害に遭う傾向が高く、結果としてホームレスになる可能性も高くなります。

こうした住居危機に取り組むために、オーストラリア YWCA では資料を作成し全国に配布してこの問題に対する意識の向上を図ってきました。さらに、オーストラリアの住居問題の現状を明記した資料と共に政策綱領を作成しました。また国会議員宛に、住居の欠如がどのようにオーストラリアの女性と少女の健康や幸福、教育や就職に影響を与えているか説明した手紙を送付しました。

オーストラリア YWCA は、連邦政府の「ホームレス問題に関するグリーンペーパー(国会などでの論議の材料とするための政府試案を述べた文書)」に対し報告書を提出し、人権に基づく枠組みの中でオーストラリアのホームレス問題を判断するよう求めました。

オーストラリアの各地域 YWCA は、女性と少女が日常的に直面する住居危機を少しでも解決するために活動しています。ビクトリア州、ニューサウスウェールズ州、クイーンズランド州、ノーザンテリトリーで、YWCA は緊急・短期・中期・長期宿泊施設を提供しています。



写真:

オーストラリア YWCA の若い女性リーダーたちとオーストラリアで活躍中の女性議員たち。向かって左から、キャンベラ YWCA のロズリン・ドゥンダス、ナターシャ・ストット・デスポジャ上院議員、ケリー・ネトル上院議員、オーストラリア YWCA のエリカ・ルイス

## ■HIV と AIDS

HIV と共に生きる女性は、2007 年の推定で約 1,540 万人で、その数は 2001 年から 160 万人増加しました。サハラ以南のアフリカでは 2007 年の成人の HIV 感染者の 61% は女性でした。東欧と中央アジアでは、成人の HIV 感染者の 26% を女性が占めました(2001 年は 23%)。一方、アジアではその比率は 2007 年には 29% に上昇しました(2001 年は 26%)。世界における 3,950 万人の HIV 感染者の約半分を女性が占めています。

世界で最も大きな女性団体のひとつである世界 YWCA は、HIV および AIDS への効果的対応をアドボカシーおよび活動の最優先課題としています。HIV による女性と少女への影響が増大しているため、ジェンダーの視点から適切なアプローチをする必要があります。そのようなアプローチによって HIV の蔓延を全体的に減少させ、女性が治療やケアを受けることができ、またその多くが女性である介護者の負担も減らすことができます。

現報告段階において、世界 YWCA は以下のアドボカシーに重点を置きました。

### 1. 女性と少女の安全

HIV および AIDS の影響を最も受けている地域の女性たちは、レイプや戦争、貧困によって増大した感染・差別・偏見に常に直面しています。「女性を暴力の危険にさらす社会的・文化的・経済的要因に緊急に取り組まなくてはなりません」 ニャラザイ・グンボンズバンダ世界 YWCA 総幹事は、2007 年 11 月 15 日にニューヨークで開催された「世界の女性リーダーによる国際安全サミット(International Women Leaders Global Security Summit)」の出席者へ呼びかけました。

絶えず不安定な状況で生きるということは人権侵害です。グンボンズバンダ世界 YWCA 総幹事はサミットに参加した女性リーダーたちに、HIV ポジティブと診断された女性が直面する暴力に対し、結集して行動を起こすよう求めました。HIV ポジティブと診断された場合に女性が危険にさらされる可能性があるため、世界 YWCA は妊婦の人権が確実に守られるよう女性リーダーたちに呼びかけました。

### 2. 全ての段階における女性のリーダーシップ

2007 年 12 月 1 日の世界エイズデーのテーマは、HIV と AIDS の蔓延に対する持続可能な解決策を見出す上でのリーダーシップの役割に着目しました。この世界的なテーマに合わせて、世界 YWCA は HIV と AIDS の蔓延を減少させるには女性のリーダーシップが重要であるという声明文を発表しました。その中で、最近発表された「ナイロビ 2007 行動要綱」に言及し、行動することで女性や少女に対する HIV および AIDS の影響を劇的に減少できるいくつかの具体的な取り組みを引用しました。

1999 年以来、世界 YWCA は地域の女性と少女の力を集結して HIV と AIDS に対応してきました。そして世界 70 カ国以上の YWCA で、感染拡大に対しさまざまな段階で取り組むプログラムの確固とした土台を築いてきました。



## コミュニティを変革する：自尊心向上トレーニングがベニン共和国の若い女性に前向きな変化をもたらします

「2005年の国連エイズ合同計画(UNAIDS)報告によると、ベニンにおける HIV 感染の 58%は 15-49 歳の女性でした」

ベニン YWCA の提供する、若い女性の性に関する健康とリプロダクティブライツ(性と生殖に関する権利)に関するトレーニングの中心は自尊心です。バンテ、ボヒコン、コヌーからの 4,000 人以上の若い女性がトレーニングを受け、HIV や AIDS の影響から身を守るための手段として、自尊心を高く持つことの大切さを学びました。

トレーニングを提供し、性と生殖に関する健康や権利のような問題に取り組むことによって、ベニン YWCA はベニンの若い女性が日常的に経験する問題を理解することができました。多くの若い女性は性感染症に関する知識はありますが、このトレーニングでは避妊手段を取らない性交渉の危険性と自分の身を守る手段に重点が置かれました。

ベニンでは若い女性が HIV や AIDS の情報にアクセスすることは容易ではありません。しかし HIV と共に生きる人々に出会い、50 人以上の若い女性が検査を受けに行く勇気を持つことができました。「トレーニングを受けたことで、彼女たちは自分の状態を知らずに AIDS を発症させる危険を冒すより、知ることの大切さを学びました。もはや HIV 検査を恐れてはいません」とフローリー・ゴウタンディ、ベニン YWCA 総幹事は語っています。

またトレーニングは性感染症や性と生殖に関する健康の講義も含んでいます。

ゴウタンディ総幹事は「少女たちがありのままの自分、若い女性としての自分を受け入れるためには自尊心について話し合うことが重要でした。文化的に、少女たちは意思決定において自分を主張しにくい状況にあります。今は男性を前にしても以前と比べると自信を持てるようになりました。自分たちの権利に気づくことができたのです」と語っています。トレーニングに参加した若い女性は、他の女性にも声をかけ参加するよう勧めています。

ベニン YWCA は継続してトレーニングを実施し、ピア教育、自立のためのスキルトレーニング、HIV に関する教育なども始めます。

## ■正義による平和

世界 YWCAにとって、平和は常に重要な優先課題です。ヨーロッパの産業革命とクリミア戦争という時代のうねりの中で 1855 年に設立された世界 YWCA は、設立から一貫して、紛争や戦争下で女性と少女にふりかかる問題に、敏感かつ綿密に取り組んできました。

平和を広め戦争を防ぐためのプログラムを強化することを、世界 YWCA はその方針の中で世界規模での運動の独特の役割として強調しています。また、平和とは単に戦争状態にないことを指すのではなく、個人や社会が恐怖にあり自由を奪われた状態も、平和と安全を十分脅かすものであると認識しています。

世界 YWCA は、2007 年も引き続き、中東の平和を訴えました。2007 年 7 月におこなわれた世界 YWCA 総会では、アラブ-イスラエル間の正義と永続的な紛争解決のための交渉と、軍による占領の縮小を国際社会に呼びかけることを決議しました。11 月に国連に提出した文書には、特に女性と少女が長引く中東の紛争で負の影響を受けていることを明記し、国連に対し中東の平和に向けた解決法を策定すると同時に、近況報告をまとめるよう促しました。



パレスチナの家庭において、女性は往々に家族の世話をする役割を担っており、家庭・子ども・老人、そして健康を損なった家族の面倒を見る責任を負っています。よって、ジェンダーの問題に対応する人道的な活動には、特に女性と子どものニーズを視野に入れることが求められます。

### コミュニティを変える：世界を平和へ導くために 日本 YWCA の活動

「核」はいらない。平和が勝つ。アジア太平洋戦争の苦い経験を噛みしめ、日本 YWCA は正義による平和を国内外に徹底して呼びかけ続けています。2 つの原子爆弾による破壊を経験した地の YWCA として、日本 YWCA は平和教育を推し進めています。

2007 年 8 月、韓国と中国の YWCA メンバー数名を含む総勢 108 人の参加者が、「一人ひとりが大切にされる世界を一ヒロシマから」のテーマのもと、広島に集いました。広島を訪れ、赤裸々な歴史を学び意見交換する中で、参加者は本当の平和とは何かを考えます。2005 年に呼びかけて始まった「平和教育資金」は、若い世代のプログラム参加のために 2007 年も活用されています。

日本 YWCA はまた、2007 年 7 月の世界総会において、そして政府に対して、劣化ウランが女性や子どもに及ぼす脅威について問題提起しています。世界中で、劣化ウランに曝された多くの女性や子どもが深刻な病に侵されており、劣化ウラン弾が使用された地域ではガンや白血病の発病、新生児の障がいや後を絶ちません。日本 YWCA は、劣化ウランによる健康被害を徹底調査することを、国連総会が決議するように各国政府に働きかけるよう、劣化ウランに反対する国際運動の日に寄せて世界の YWCA に呼びかけます。

日本の各地域 YWCA でも、原爆絵画展の開催、9 条ポストカードの販売、長崎高校生平和大使の派遣、映画祭、各種スタディーツアーなど、さまざまな平和活動に関わり、展開しています。

日本 YWCA は、自らの戦争の加害責任と原爆という非人道的な経験に立ち、これまで一貫して平和を活動の中心に据えてきました。この苦い経験は、創造なくして平和は達成できないこと、闘い続けなければ平和は守られないこと、そして何より、武力による平和は決してあり得ないことを YWCA 運動の中に深く刻んでいます。

### ■リーダーシップ

世界 YWCA は、まさに変革を導く女性たちの集まりです。YWCA を通して女性たちは自分たちの可能性に気づき、リーダーとなり、力を発揮して変革を導くことができます。

世界 YWCA はさまざまな機会を提供して若い女性のリーダーシップを養成しています。例えば、インターンシップ、交換プログラム、地域イベントや世界的なイベントでの若い女性のリーダーシップの訓練、さまざまな状況にある若い女性リーダーに支援と情報のネットワークを提供するためのインターネット上での会議などを提供しています。また YWCA は常に世代間の協力関係を大切に、公的・私的両方のメンター関係を推進しています。

女性のリーダーシップは家庭やコミュニティで重要な役割を果たすと共に、世界的な課題や不正義に対する、持続的な解決を見出すためにも必要不可欠です。

2007 年度の世界 YWCA 長期インターン(1年)はチリ YWCA のカテリーナ・レンプ、アオテアロア/ニュージーランド YWCA のサラ・デービスでした。短期インターンはザンビア YWCA のブレンダ・ムウィンガ、インド YWCA のアニタ・ヘプシバ・マノハラン、ベリーズ YWCA のイチルダ・ヒュムス、アメリカ YWCA のケイティ・E. ペルティヤー

でした。カテリーナとサラのインターンシップについて、ディスカッションを You Tube で配信中です。  
[www.youtube.com/worldywca](http://www.youtube.com/worldywca)

「長期的なビジョンには、何世代にもわたるコミットメントが必要です。ですから、YWCA は若い女性のリーダーシップに投資するのです。協力的で多くの機会が与えられる環境の中で若い女性にリーダーシップを身に付ける場を提供することによって、私たちは社会変革に必要なビジョンと行動を持続可能なものに行っているのです。また、私たちは力強い資産を創り出しています。その資産とは、社会の他の分野にも進出し変革を導くことのできる、分析力があり知識も豊かで、十分に訓練された女性リーダーたちです」

ムシンビ・カニヨロ 世界 YWCA 総幹事(1998-2007)

各プログラムでは「変革への力基金」への支援を引き続き求めていきます。

## 女性リーダーを称える

世界 YWCA は 2007 年 4 月 24 日の世界 YWCA デーに、「女性リーダーを称える」キャンペーンを始めました。このキャンペーンでは、コミュニティに変革を導いた卓越した YWCA リーダーを継続的に称えるよう加盟 YWCA や個人に呼びかけます。2007 年 6 月までに 200 人以上の推薦が届けられました。これらは「変革を導く女性リーダー名簿」にまとめられ、2007 年 7 月ナイロビ・ケニアにて開催された世界 YWCA 総会にて展示されました。「名簿」は世界 YWCA で永久保管され、称賛すべき女性たちの貢献はいつまでも記憶に残ります。

「女性リーダーを称える」キャンペーンによって集められた寄付は、2007 年 7 月に女性と少女のリーダーシップ養成のために始められた恒久基金である「変革への力基金」に組み入れられました。

## 生活を変える: カリフォルニアのコミュニティでは、コンピュータークラスによって少女リーダーが育成されています



女子大学生と恵まれない環境にある少女とが、テクノロジーを利用して有意義な関係を構築するという革新的なメンタープログラムが、カリフォルニア州オークランドのバークレーYWCA によって運営されています。

TechGYRLS は、家庭にコンピューターのない女子小学生の生活を変革する活気溢れるグループです。そのプログラムは、オークランドの 3 つの小学校を対象に、放課後指導のひとつとして週 1 回開催され、約 20 人が参加しています。

メンタリングは TechGYRLS クラブの重要なポイントで、カリフォルニア大学バークレー校の女子生徒がボランティアでプログラムのリーダーを務めます。バーメシア・バンクスは法学部の二年生で TechGYRLS のボランティアです。「私がボランティアをする理由は、少女たちが自己発見をして、コミュニティで有能なリーダーになる力を育てるお手伝いをしたいからです」

TechGYRLS のカリキュラムは楽しみながら学べるような科学や数学のプロジェクトも含みます。「数学・科学・

テクノロジー・コンピューターの分野で職業を持っている地元の女性を招き、これまでの人生や職業について語ってもらいます。これは少女たちに自分と同じような女性で、同じ学校に通った女性たちが、人生のさまざまな困難にも関わらず素晴らしい女性になれるという希望を与えます」と、ジェイナ・ヒラガ TechGYRLS ディレクターは述べています。

TechGYRLS に参加した少女たちは自分の生活が変わったと言います。小学 4 年生のレティシア・ビラビセンシオは、こうした技術を学ぶのが好きです。「想像していたより面白いわ。コンピューターと言えばディズニーチャンネルのサイトしか見なかったけど、今ではカレンダーを作ったり、速くキーボードを打ったり、友だちやジェイナにメールしたりできるようになったの。コンピューターを自分で使えるようになったわ」

尊敬できる先輩の存在は少女たちに希望を与えます。小学 5 年生のモウリシア・モーガンは次のように語っています。「科学やテクノロジーについて話をしてくれた女の人たちに憧れるわ。大学では科学に関係することをしたい」

TechGYRLS のプログラムディレクターのジェイナ・ヒラガは、プログラムに参画できることを光栄に思っています。「少女たちがコンピューター・科学・数学・批判的思考法・チームワーク・他者とのコミュニケーションなどに関して、知識や能力を伸ばしていく過程は感動的です。コンピューターやテクノロジーの分野への道を開くお手伝いをしているのがわかり、いつの日か、今度は彼女たちがこうした分野で成功したいと他者に思われる存在になるだろうという期待を抱かせてくれます」



## 世界 YWCA 常任委員・スタッフ

### ■常任委員会

#### <役員>

会長 スーザン・ブレナン(オーストラリア)

副会長 コンフォート・アニ(ナイジェリア)、アンナ=カイサ・イコネン(フィンランド)、ピン・リー(台湾)、リーム・ナジャー(ヨルダン)、ジェシカ・ノットウェル(カナダ)、デボラ・トーマス(トリニダード・トバゴ)

会計 モーリン・ベル(カナダ)

#### <常任委員>

アーダ・アガザリアン(パレスチナ)、バレリア・アリアガ・メヒア(ホンジュラス)、シルバナ・アヤイポマ・デ・マトス(ペルー)、キャロライン・フラワーズ(アメリカ)、マリア・モレナ・ガルベロ(フィリピン)、イチルダ・ヒュムス(ベリーズ)、キューステイー・ケリー(イギリス)、ジュリアテ・ケヤ・マラカー(バングラデシュ)、アリス・ミリモ・カベチ(コンゴ民主共和国)、コンスタンス・シュンバ(ジンバブエ)、セポラ・タガロア(アメリカ領サモア)、ギースキ・ザネン(オランダ)、モニカ・ゼツチェ(アルゼンチン、前会長)

### ■スタッフ

総幹事: ムシンビ・カニヨロ(ケニア、2007 年 8 月まで)、ニヤラザイ・ゲンボンズバンダ(ジンバブエ、2007 年 11 月～)

総幹事アシスタント： アナ・ピラヌエバ(アルゼンチン)  
 副総幹事： ナタリー・フィッシャー＝スパルトン(カナダ)  
 副総幹事アシスタント： ジュリアティ・ソエジャマン・マツソン(インドネシア)  
 ヨーロッパ地域担当： ナタリア・アレクサンロドビッチ(ベラルーシ)  
 アジア太平洋地域担当： クラリッサ・バラン(フィピン、2007年7月まで)、ジュリー・ダグデール(オーストラリア、2008年8月～)  
 アメリカ・カリブ地域担当： マリー＝クロード・ジュールサン(ハイチ)  
 アフリカ・中東地域担当： ヘレン・インダ(カメルーン)  
 HIV および AIDS コーディネーター： ソフィー・ディルミティス(ジンバブエ)  
 総務アシスタント： カテリーナ・レンプ(チリ)、マガリ・ルツセル(フランス)、ほか  
 編集・キャンペーン：  
 カプロ・コビア(ケニア)、サラ・デービス(アオテアロア／ニュージーランド)、シルビー・ジャクアット(スイス)  
 財務・会計：  
 ジェーン・ベネット(アイルランド)、マンディー・ノガレデ(イギリス)、アイカ・ルワ・テム(タンザニア)  
 人事： マリーアントワネット・サンツチ(スイス)  
 システム： フィオナ・ウィルキー(イギリス)

☆☆☆☆☆

## 会計報告 (単位：スイスフラン)

■資産 2007年3月31日      2008年3月31日

■資産		
<b>1.固定資産</b>		
・建物附属設備(純額)	324,985	301,772
<b>2.流動資産</b>		
・当座資産	1,443,338	381,013
・売却可能金融資産	13,789,701	16,409,195
・売掛金	1,817,707	446,823
・源泉徴収税等	65,198	100,544
・前払金	50,718	35,618
<b>2 合計</b>	<b>17,166,662</b>	<b>17,373,193</b>
<b>資産合計</b>	<b>17,491,647</b>	<b>17,674,965</b>

## ■基金・準備金

<b>1.一般基金</b>		
・受取寄付金	5,193,046	5,151,722
・資本準備金	150,133	75,187
・その他の準備金	942,996	660,479
<b>1 合計</b>	<b>6,286,175</b>	<b>5,887,388</b>
<b>2.指定基金</b>		
・指定プログラム基金	716,569	7,702
・リーダーシップ恒久基金	9,064,918	10,689,266
・国際発展基金	244,160	210,134
・J&U ポーター基金(資本)	191,360	191,360
・J&U ポーター基金(利息)	14,377	-
<b>2 合計</b>	<b>10,231,384</b>	<b>11,098,462</b>
<b>基金・準備金合計</b>	<b>16,517,559</b>	<b>16,985,850</b>

## ■負債

<b>1.固定負債</b>		
・加盟団体預り金(長期)	391,000	410,000
・前受寄付(長期)	162,199	149,722
・年金	-	21,835
<b>1 合計</b>	<b>553,199</b>	<b>581,557</b>
<b>2.流動負債</b>		
・前受収益	285,980	-
・買掛金および未収金	87,220	59,188
・加盟団体預り金	35,212	35,893
・前受寄付(短期)	12,477	12,477
<b>2 合計</b>	<b>420,889</b>	<b>107,558</b>
<b>負債合計</b>	<b>974,008</b>	<b>689,115</b>

<b>基金・準備金、および負債合計</b>	<b>17,491,647</b>	<b>17,674,965</b>
-----------------------	-------------------	-------------------

世界YWCA活動報告英文は：[www.worldywca.info](http://www.worldywca.info)

World YWCA ANNUAL REPORT APRIL 2008–MARCH 2009 (英文)  
CHANGING LIVES CHANGING COMMUNITIES

編集・発行：世界YWCA 2009年 1月  
[www.worldywca.org/](http://www.worldywca.org/)

世界YWCA 年間活動報告書 2007–2008年 日本語版

編集：日本YWCA国際コミュニケーション・チーム  
発行：日本YWCA 2009年 10月  
翻訳協力：神谷理恵子・小森万枝代・福嶋由里子  
〒160-0008 東京都新宿区三栄町6-12-2F  
Tel: 03-5367-1872 Fax: 03-5367-1873  
E-mail: [office-japan@ywca.or.jp](mailto:office-japan@ywca.or.jp)